

中国・地域づくりハウス便り

廿日市市まちづくり基本条例検討市民委員会始まる

各自治体は協働のまちづくりを目指して様々な取り組みや仕組みづくりを進めています。

廿日市市は早くからこのような取り組みを行っています。コミュニティ推進プランから始まり、市民活動センター設立。そして住民参画のまちづくり条例の策定です。

6月19日(土)廿日市市住民30名と自治振興課を中心として他の課も参加した設立会が行われました。委員は公募と従来型の地縁関係とが織り成す委員選考ですが、公募で参加した住民は非常に意識の高い人たちで、「地域を私たちも協働で考え、参加していかなければ」の声。学生もこの委員会に4名参加。まず、顔合わせで始まった会ですが、参加者全員が同じ意識で参加しているわけではなく、何を決めるにも(会合日程度のものまで)ああでもない、こうでもない意見が多く、条例検討ワークショップを始めるまでに、一山二山ありそうです。しかし、これも、住民自治を協働で行うための行政、住民の意識改革であり、「協働、協働」と言いながら、ボランティアがわりの協働と理解している行政に比べれば、住民と行政の間をつなぐ「市民活動センター」の役割がさらに進化していくことと思います。交流会もこのお手伝いをさせていただきます。ワークショップに参加する私たちも「中間組織」としてのあり方をさらに考えていきたいと思ひます。



中国地方地域づくり等助成事業報告会開催

祝島集落練堀修復保存プロジェクトが大賞!!

21年度中国地方地域づくり助成事業報告会が例年通り、広島市内のゲバントホールにて開催されました。

21年度の助成団体は28団体でその中から10団体が選ばれ、報告会がありました。

中国建設弘済会主催の公益事業で、毎年、中国地方のN.P.Oやまちづくり団体約30団体が助成を受けています。事業内容によっては2年~3年の助成が得られ、助成額は高くないものの、継続して地域づくりが行えるメリットがあります。

今年も中国地方から報告者と関係者、行政、交流会メンバー約100人が参加しました。



今年の活動報告は、質の高さでは今までの中で一番高く、どれも大賞をとってもおかしくない内容のある事業ばかりでした。活動内容の多くは少子高齢化で担い手の少ない集落や商店街の活性化を汗や知恵をだして頑張っていることです。地域に誇りを持ち、地域を愛し、文化、歴史を次世代につなげていく住民や応援団の努力と意気込みが報告会では伝わってきました。

大賞 「祝島集落「練堀」修復保存プロジェクト」



山口県熊毛郡上関町の海上に浮かぶ面積約8km²の小島で、伝統的な祭り「神事「神舞」」や不老長寿で有名な叙福の物語等大陸との関係が深かった島でもあります。漁業で栄えた島でしたが、現在、約500人の島民が暮らしています。祝島は練堀もさることながら、棚田の石垣も人間の背をはるか越える高さのものが残っています。少子高齢化で、練堀等の補修もままならない状態でした。

「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれ、その中の5選に認定されたのがきっかけで、祝島の発信を続けている橋部氏が中心となり、親交のあった広工大の森保教授と学生との協力で助成事業を申請し、採択された事業です。修復は4戸延べ80メートルの修復をしました。島外から毎回10名以上の参加者と島民が協力して補修作業に携わりました。

結果、「集落が一層個性的になり、明るくなった。島民の練堀への愛着が強くなった。」等の成果が現れてきました。今後も地域住民が中心となり、継続して修復に携わっていくことになっています。また、伝建地区としての活動も始まるそうです。



敢闘賞 「継続的・循環型水路と棚田保全活動」

京ヶ原プロジェクトは、鳥取県東部の最高峰、扇ノ山中腹の棚田を保全するため、棚田の水源京ヶ原井出(用水路)の維持管を現在5戸の農家が2.5haを利用しています。水路の維持管理は堆積する土砂や草刈が大変で、ここでも少子高齢化の波をもるに受けている地域ですが、5戸の農家が交流と連携で頑張っています。その活動の報告でした。



敢闘賞 「神門通り廻りプロジェクト活動事業」

神門通り廻りプロジェクトは出雲大社の表参道である「神門通り」が、平成25年5月に大遷宮を向かえるのきっかけに、かつての「神門通り」の賑わいに甦えさせるための地域住民の活動です。明治45年に開業したJR大社駅から、出雲大社へ人の波が

